

## 第13回 川越市総合計画審議会

**1 開催日時** 平成27年11月2日（月）午後4時30分～午後4時55分

**2 開催場所** 市役所4階 4A会議室、迎賓室

### **3 出席者**

溝尾良隆、河野哲夫、江田肇、大泉一夫、川口知子、小野澤康弘、川口啓介、伊藤匡美、真下英二、岩堀和久、岡田弘、小倉元司、柿沼昭弘、小室万里、櫻井晶夫、重成大毅、杉山榮子、関口俊一、原伸次、山岡俊彦、平嶋こずえ、町田一枝の各委員

### **4 会議の概要**

#### 1 開会

#### 2 答申について

○2月から13回にわたり会議に御出席いただきありがとうございます。答申の内容については、前回の審議会で会長、副会長、事務局に一任いただいた。最終的に、3番目の項目に高齢者がいきいきと暮らしていけるという視点と障害者の社会参加の充実ということで、障害者が積極的に、健常者と同じように行動できるようにという文章を加えた。

7番目の項目で環境問題についての記述が弱いという指摘が前回あった。また、自然と市街の景観や空き家問題が並んでおりすわりが悪かった。「市民が日常的にふれ合うことができる武蔵野の豊かな里山と市名に関連する河川をいかす」ということで自然や環境に関することを表現した。その次に、市街においては、と分け、景観や住宅施策、交通施策を快適なまちづくりとして一括し、住みたい、訪れたい、市のブランド力の向上を目指すということを表現した。

これらの点が、皆さんからでた御質問や御指摘を少し具体的にしましたもので、こちらをもって、市長への答申とさせていただきます。

#### 3 その他

◎事務局から、資料の確認と答申の流れについて説明。

- ・策定の趣旨について、現在最終調整中で確定していないため、確定し次第、第四次川越市総合計画原案を簡易製本し、お手元に届けさせていただきます。

#### 4 閉会

## ●答申

- ・迎賓室にて、溝尾会長から川合市長へ答申と第四次川越市総合計画原案を手交。

- ・会長挨拶

審議会の委員は2月から13回にわたり審議を重ねてきた。一番大きな課題と捉えたのは少子高齢化による人口減少で、地域によっては大幅に人口が減少すると言われている。川越市はこれまで人口増加が続いてきており、先日人口35万人となったが、推計をすると人口減少は免れない。審議会としては一番の将来目標として、だれもが住み続けたいようなまちをつくりたいということを掲げた。住み続けたいまちが5年後、10年後に人口が減るようなことはあってはならない。今回提案した色々な施策を実施することにより、少なくとも現在の35万人を下回らない、推計のようになってはならないという強い決意を持って答申をまとめた。

そのような観点から見ると、少子化問題はどのようにするのか、高齢者がいきいきと健康に過ごせるまちにするためにはどうしたらいいのか、といったことを前面に出した。

観光では幸い観光客数が増え続けているが、滞在時間を伸ばし、川越はいいまちだと思ってもらえるような観光を展開し、農業、商業、工業などは色々な課題を抱えているが、川越のまちがよくなることによって新たな工場進出や、買い物客が増加する可能性が生まれる。このような経済循環とまちづくりを連動させたい。

また、武蔵野の里山や川越という名前のおり河川がたくさん流れており、自然が豊かである。子どもたちが小さいうちから自然と触れ合うことは大切であり、市民も自然と触れ合えるように自然を活用していきたい。市街においては、他市同様に空き家が目立ち始めているため、そうしたものを活用したり交通施策の充実などにより快適なまちづくりを進めて欲しい。川越はいいまちだとブランド力が向上すれば多くの人に来てくれるようになるし、住みたいと思ってくれるようになる。

市長のお話しにもあったが、こういったことを実現させるためには行政だけではできないので、産業界はもちろんのこと、これからは行政依存型ではなく、市民が中心となってコミュニティをどうするか、高齢者の問題、交通対策、住みよいまちをつくるにはどうするかといったことを考える時代であり、地域内分権を進めていただきたい。このようなことを答申で述べているので、市長におかれては、今後ぜひこういうまちをつくるという思いを市民に向けて発信していただければ大変ありがたいと思っている。

- ・市長挨拶

総合計画審議会の委員におかれては大変お忙しい中、2月から13回にわたり熱心に御審議いただきありがとうございます。第四次川越市総合計画は計画期間中に市の人口が減少することが見込まれるなかでの計画だが、委員の皆様の御意見のおり、この8月に到達した人口35万人を、今後10年間維持し、下回らないことを目標にさまざまな施策を講じていきたいと考えている。

この計画で新たに章として設けられた「こども・子育て」に関する施策については、少子化という国全体の課題を克服するためにも、また、市の未来を担う次世代への投資を行うためにも、積極的に取り組みたい。

また、2025年には、団塊の世代が75歳以上となるなど、これからますます進む高齢化社会をしっかりと見据えて、高齢者福祉や健康づくりなどの施策にも力を入れて取り組みたい。

この計画の期間中の平成32年には東京オリンピックのゴルフ競技の開催が予定されており、また平成34年には市制施行100周年という節目を迎えることとなるが、これらを契機に市がさらなる発展を遂げるよう、努力してまいりたい。

審議会で御審議された答申である、第四次川越市総合計画に基づき、各種施策を確実に実施してまいりたいと考えている。今後とも、一層の御助力、御教示を賜りたい。

- ・写真撮影
- ・終わりの挨拶